

2015春季講演会(東海大)シンポジウム

シンポジウムの主題(全体テーマ名)

日本語	衝撃および重力場応用の物理の最前線
英語(必須)	Research forefront of shock wave and high & micro-gravity application science

世話人

	氏名	所属	
1	松谷晃宏	東京工業大学	
2	松本 仁	防衛大学校	
3	真下 茂	熊本大学	

企画の趣旨および内容説明

・企画の趣旨:

これまで、衝撃応用と重力応用の本学会におけるシンポジウムは別々に行われていたが、さまざまな領域と密接に関係する両分野は複合領域の物理として重要な学問分野であることから、従来の研究分野の枠にとらわれず広い視点からさ衝撃研究および重力応用に関する話題について講演を企画した。今回は、衝撃応用と重力応用の最近の話題を取り上げ、両分野の融合的な研究の芽を発見するきっかけとし、一般講演を交えながら新たな科学技術の展開に寄与するシンポジウムとする。

・企画母体:

1.3新技術・複合新領域、衝撃応用研究グループ、重力場応用研究グループ

・トピックス性・過去の実績・準備状況:

衝撃応用および重力応用とも、毎年春の講演会にてシンポジウムを企画し、分野横断的な交流を図っている。衝撃応用については、衝撃のダイナミクスとその極限的環境を利用した実用技術の進展および多様な萌芽的技術の可能性を議論している。また、重力場応用研究グループは本グループは2007年度に発足し、2008年度から活動を開始し、2010年8th Japan-China-Korea Workshop on Microgravity Sciences(仙台)、2011年8th International Conference on Diffusion in Materials (ディジョン、フランス)、2014年9th International Conference on Diffusion in Materials(ミュンスター、ドイツ)で重力応用グループがセッション参加を行った。衝撃応用・重力応用とも1.3新技術・複合新領域で定常的に一般講演しており本学会会員の関心も高い。

・一般セッションとの関連性: 1.3新技術・複合新領域に関連する。